

平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調査

(1) 取組名	次世代の湯治場 ～Every バーデ メタボクリニック in 室戸～			
(2) 実施団体名	次世代の湯治場検討協議会	(3) 対象地域	高知県室戸市	
(4) 代表団体名	室戸市商工会	(5) 推薦団体名	室戸市	
(6)実施した取組の内容	取組①	海洋深層水を軸に室戸の地域資源を活かした健康増進・体験プログラム策定		
	実施主体	室戸市商工会（バーデハウス室戸、室戸市観光協会、えこ・まち研究室）		
		当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
	実施内容、実施結果	【実施内容】 ①海洋深層水健康増進プログラムの策定 ②体験メニューの検討 ③モニターの結果を受けた解析・検証 【実施時期】 8月～12月 【取組の目的】 長期滞在によるメタボリック症候群改善プログラムと、滞在期間中に 室戸を楽しむ体験メニューの策定	【実施内容】 ①滞在中の健康管理のためメタボクリニックノートを作成、運動面では高血圧、脂質代謝異常、糖質代謝異常用の水中運動プログラムを作成した。 ②観光体験をしてもらう為WGIにより観光体験メニューを作成。 各体験観光事業所に対しヒアリングを行い既存の観光素材の磨き上げや、新たな健康体験の掘り起こしを行い23の体験メニューをプログラム化した。 ③一週間の長期モニターに対してモニター期間前後の血液採取を行い検証した。その結果から、明かに改善につながっている結果が得られた。 【実施時期】 8月～12月	
	取組②	地元受け入れ体制の整備		
	実施主体	室戸市商工会（えこ・まち研究室、バーデハウス室戸、食遊館808、室戸市調理師会）		
		当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
	実施内容、実施結果	【実施内容】 ①関係者ヒアリング ②モニター受け入れに関する調整 ③地元受け入れ体制の検討 ④地域資源（食や泊）の魅力向上 【実施時期】 8月～11月 【取組の目的】 プログラム体験受け入れ窓口として、関連施設やアクティビティ、宿泊施設、食等との連絡体制網を構築	【実施内容】 ①宿泊施設や観光体験メニュー提供事業者に対して、WGでの検討以外にも足を運び協議を繰り返すことにより、より柔軟な受け入れ体制の構築につなげた。 ②モニターサポートセンターをバーデハウス内に設置しモニターからの様々な相談に対応するとともに、モニターへの情報の窓口を一元化した。 ③④地元食材を使ったヘルシーメニューの検討（一日2000kcal以内のヘルシーメニューを作成した。）、泊については各宿室戸の魅力、おもてなしを提供するため勉強会を行った。 【実施時期】 8月～11月	
	取組③	モニターによるプログラムと体験メニューの効果検証		
	実施主体	室戸市商工会（バーデハウス室戸・室戸市観光協会・食遊館808、えこ・まち研究室）		
	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果		
実施内容、実施結果	【実施内容】 ①モニター募集に関する調整と募集用資料作成 ②体験メニューへの案内 ③モニター体調管理・各種検査と滞在サポート ④モニターに対するグループヒアリング調査 【実施時期】 8月～12月 【取組の目的】 効果的なメタボリックシンドローム改善プログラムの策定及び検証	【実施内容】 ①モニターの募集はチラシの作成・ホームページの開設により、9月中旬から10月末にかけて行った。高知県の県外事務所や商工会ネットワークなどを通じた情報発信とともに、関東圏の朝日新聞夕刊、関西圏のフリーペーパーなどへの掲載も行った。その結果、関東（22人）、関西（38人）、高知県以外の四国（6人）、高知県（26人）の合計92人のモニターが集まった。 ②事前に観光体験メニューの情報提供を行うと共に、バーデハウス室戸内にサポートセンターを設置して案内を行った。モニターへの体験補助も実施。 ③血圧、体重測定を毎日行うと共に、運動や食に関するカンファレンス、個別相談を実施し、自宅に戻っても健康維持に取り組める学習につなげた。 ④最終日にグループヒアリングを行い滞在中の感想や体調の変化などを発表してもらった。その結果、総じて好評であり、課題の克服が前提ではあるが商品化の価値があることがわかった。 【実施時期】 8月～12月		

	取組④ 『地域の魅力とプログラム効果』の情報発信手法の構築
	実施主体 室戸市商工会（(有)生活創造工房）
(6)実施した取組の内容	当初提案により予定していた計画
	<p>【実施内容】</p> <p>①室戸の健康観光をPRするホームページ作成 ②室戸の健康観光をPRする冊子の作成・関係機関へ発送 ③ホームページの管理運営体制の整備 ④各種マスメディアを使った情報発信</p> <p>【実施時期】 9月～2月</p> <p>【取組の目的】 観光入り込み客の増加と健康増進プログラムのPR</p>
	実際の取組内容及びその結果
	<p>【実施内容】</p> <p>①②健康観光と室戸の魅力を全国に発信できるホームページ及びリーフレットを作成し、県外の関係機関や観光窓口、今回のモニターに送付する(予定)。 ③ホームページの運営については容易に更新できる機能を付加し情報をリアルタイムに発信できる体制を構築。(実施中) ④すでに取り組みが地元紙を中心に報道機関にとりあげられている。(実施中)</p> <p>【実施時期】 9月～2月</p>
(7)実施体制	平成20年度の取組実施における体制・役割分担
	<p>○事務局及び全体統括:室戸市商工会 ○協議会メンバー:室戸市、室戸市観光協会、バーデハウス室戸、室戸市医師会、室戸市調理師会、高知県漁業協同組合 室戸岬統括支所、JA土佐あき室戸支所、室戸市旅館組合、室戸食遊館808(民宿グループ)、室戸市青少年自然の家、室戸ドルフィンプロジェクト、高知東部交通(株)、えこ・まち研究室、(有)生活創造工房 ○アドバイザー:須藤准教授(国士館大 運動処方)、西森美恵(管理栄養士) ○オブザーバー:高知県</p>
	取組の実施を踏まえた反省点
	<p>・協議会メンバーの特性から“①健康増進プログラム策定WG”と“体験メニュー策定WG”の2つの実働ワーキンググループを設置した結果、より柔軟な対応ができた。 ・“体験メニュー策定WG”は、事業上の混乱を避けるために中途より“観光体験メニュー策定WG”へと名称変更。 ・今回の観光体験メニューの事業者の中には、協議会への加盟を積極的に打診してくれている人がいる。 ・モニター事業開始に合わせ、バーデハウス室戸にモニターに対する現地窓口として“モニターサポートセンター”を開設した。</p>
(8)取組により得られた成果	○成果1→ 室戸の来訪者(特に宿泊客)を増加させる
	H19
	263千人(内宿泊32千人)
	H20(当初予定していた目標)
	300千人(内宿泊40千人)
	H20(実際に得られた成果)
	平成20年1月～12月 360,917人の入り込み客数(内 宿泊 44,393人)
	H20年度事業における事業のPR活動が、室戸そのもののPRにもつながり、新規来訪者の獲得に寄与したと考察される。
	○成果2→ “海洋深層水健康増進プログラム”体験者を増加させる。
	H19
0	
H20(当初予定していた目標)	
200人	
H20(実際に得られた成果)	
144名の体験者があり。(2009年1月20日現在)	
※ 1/18にはヨガイベントとのコラボレーションによる(関西地区 20名・関東地区 7名・県内 3名)体験プログラムの実施も含む。 現在もモニター以外の体験者もあるが、モニターツアーの効果ホームページにアップする等の広報をして、体験者の増加につながる取組を実施中。	
○成果3→ “次世代の湯治場づくりプロジェクト”の活動メンバーを拡大する。	
H19	
20人	
H20(当初予定していた目標)	
10団体-100人	
H20(実際に得られた成果)	
“観光体験メニュー”の関係者や宿泊事業者などを中心に、地元メンバーが拡大している。(15団体120名)(2009年1月20日現在) 更に、活動メンバーとして各種団体等への参加を要請し拡大中。	
(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点	①長期滞在の体験者が飽きることはないように、『健康増進プログラム』のバリエーションを充実させるとともに、インストラクターの配置による運動の高度化につなげる。また、“健康”の対象を本年度取組んだ“メタボリックシンドローム”のみならず、社会的な関心が高まってきている“心の健康”などにも次年度は新規に取り組むことにより、新たなターゲットを獲得する。
	②『健康増進・体験プログラム』の体験者に提供する食事を、各宿が独自メニューで提供できる仕組みが必要。そのためには、各宿が簡単にカロリー及び栄養管理できる支援ツールの開発が求められる。
	③地域内の移動手段が限定されており、自動車を持たないモニターには体験などに制約が発生した。“健康のための運動”と“室戸の恵まれた自然のロケーション”をうまく融合させたレンタル自転車の充実、公共交通網の利便性向上、仲間と楽しめる移動手段としてレンタカーの設置などが求められる。
	④平成20年度事業では一度に多くのモニターを受け入れたことから、宿の質のばらつきが顕在化した。その反省を踏まえ、今後の事業展開に連携できる宿の選択と質の向上につなげる取り組み(研修の実施、施設の改修など)を実施。

	当初提案に予定していた平成21年度以降の展開	今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度
(10)平成21年度以降の活動の見込み	<p>■ 室戸での長期滞在を楽しめる既存アクティビティの磨き上げ及び開発（～平成21年9月） 地域のアクティビティにより魅力を持たせるためのブラッシュアップとともに、新しい魅力の開発に取り組む。</p>	<p>○ 地元の魅力磨き上げ及び本格稼働のための商品化に向けた体制づくり（平成21年4月～8月） モニターの見解を踏まえ、アクティビティ(観光体験メニュー)の磨き上げの他、本格稼働に向けて、新たに、宿泊施設の改善や室戸での楽しみ方の充実に取り組み、さらに地元の受け入れ体制を構築する。 ・宿泊施設の改善：H20事業モニターの見解を踏まえたソフト面の改善。(279千円) ・観光体験メニューの拡充：季節を通じた新たな体験メニューの発掘とプログラム化。(268千円) ・おもてなしガイドの養成：地域を地元の言葉で案内できるガイドの養成。(別事業にて対応) ・来訪者受け入れ体制の構築：総合窓口の設置(347千円) ・域内移動手段の拡充：域内交通手段の拡充検討、レンタサイクルの運用(945千円) ・市内の四国霊場3カ寺院巡り(山登りの要素あり、心の健康対策にも寄与、写経・法話説法の実施も協議中)</p>
	<p>■ 室戸の食材を使った健康メニュー作成支援ソフトの制作（～平成21年11月） 地元食材を入力すると“糖分”や“脂質”、“カロリー”などを自動的に算定し、健康に配慮されたメニューを提供できるソフトを制作し、市内の民宿や旅館、飲食店で活用する。</p>	<p>○ 室戸のヘルシーメニューの拡大(平成21年4月～8月)、健康メニュー関連ソフト・商品の開発・作成 室戸の“食”を健康的に楽しんでもらうための仕組みづくりやツールの制作。 ・地元食材による四季毎のヘルシーメニューの策定。(462千円) ・宿泊施設が独自にヘルシーメニューを構成できる栄養管理支援ソフトの作成。(551千円) ・室戸で提供される食事のバランスガイド冊子の作成。(1,155千円) ・室戸の食材供給ネットワークの構築。(32千円) ・室戸のヘルシーなお土産品の開発。(126千円)</p>
	<p>■ 超長期滞在による『健康増進・体験プログラム』の効果検証（平成21年11月） 『健康増進・体験プログラム』を30日間体験するモニター調査を新たに実施し、湯治場に長逗留する人を想定した効果検証を行う。</p>	<p>○ 健康増進プログラムの拡大、超長期滞在のモニター調査等の実施(平成21年4月～11月) モニターの見解を踏まえ、多様な健康増進プログラムを準備するとともに、超長期滞在者向けの対応等を新たに検討する。また、そのためのモニターによる試行も行う。 ・“心の健康を取り戻す”ための新たなプログラムの開発とモニターによる試行。(1,009千円) ・“親子の絆をより深める”ための新たなプログラムの開発とモニターによる試行。(741千円) ・“メタボ対策”のための超長期滞在プログラムの新設とモニターによる試行。(2,865千円) ・超長期滞在者向けに空き家を活用。(別事業にて対応) ・パーデハウスの水中運動インストラクター養成：パーデハウスでの運動バリエーション拡充。(別事業にて対応)</p>
	<p>■ プログラム体験者が室戸を再来訪するきっかけとなる健康イベントの実施（平成21年12月～） 本格稼働に向けて、健康をキーワードにしたイベントを開催し、地域内外にアピールする。また、『健康増進・体験プログラム』経験者には個別に紹介し、室戸へのリピーター獲得につなげる。</p>	<p>○ 本格稼働に向けた、健康をテーマにしたイベントの開発と実施(平成21年4月～平成22年2月) 本格稼働に向けて、モニターとして室戸へ来られた方の再来訪や、新たな来訪者の獲得を目指した健康をテーマとするイベントの企画開発と試行を行う。 ・健康をテーマとするイベントの企画開発及び試行。(1,202千円)</p>
	<p>■ 『健康増進・体験プログラム』のマスメディアを使ったPR活動（平成22年1月～） 多くのマスメディアにとりあげてもらい、全国に『健康増進・体験プログラム』のPRを行う。</p>	<p>○ 情報発信とPRの強化(平成21年4月～平成22年2月) “次世代の湯治場”の取り組みを全国に発信するとともに、リピーターを増やすことも図るため一度室戸に来られた方に対する優先情報の発信手段も構築。また、ターゲットを絞ったPR活動も展開。 ・情報発信ツール(ホームページ、リーフレット)の強化及びその管理運営(2,100千円) ・各種メディアへの積極的な情報発信(525千円)</p>
	<p>■ 『室戸 次世代の湯治場』として本格稼働（平成22年6月～） 地元組織の自立した運営により、“次世代の湯治場”を商品として営業展開し、時期を選ばず訪れる次世代の湯治ツアー希望者を受け入れ、室戸のあらゆる分野の活性化に寄与させる。</p>	<p>○ 自立した本格稼働に向けた取り組み(平成21年4月～平成22年2月) “次世代の湯治場”の自立運営に向けた地元体制の構築と、運用の試行。そして本格稼働へ。 ・旅行者や企業などとのタイアップの働きかけ。営業活動(3,455千円) ・期間を限定したツアーの受け入れ(平成21年9月、10月、11月、12月に1週間の実施)(1,654千円)</p> <p>○ 地元組織による“次世代の湯治場”の本格稼働(平成22年6月～) ※室戸市は、大消費地から遠く、産業基盤が脆弱なことなどが要因となり、人口の減少と高齢化に歯止めを掛けられず(減少率：約2.8%/年、高齢化率：約32%)、地域活性化の視点からはネガティブスパイラルに陥ってしまっている。本取組の本格稼働により若年層の就労機会の創出や地域外との交流拡大、住民の地域に対する自信回復等につなげ、室戸の元気の再生を目指す。</p>

◆主な実施取組の内容◆

地元の『健康観光』受け入れ体制構築

1. 健康増進プログラムの作成
バーデハウス室戸での水中運動を中心にウォーキングなどを付加した“健康増進プログラム”の策定
2. 観光体験メニューの作成
室戸で体験できるアクティビティに呼びかけるとともに、新しいものも発掘してメニュー化
3. 『食』と『泊』の受入体制整備
地元食材によるヘルシーメニューの検討と食事提供者への講習、宿泊施設の受入体制の整備
4. 情報発信手法の構築
ホームページの開設とリーフレットによる情報発信

全国からのモニター(92名)による実践

【結果】
モニターの体質に改善が見られる。
・血圧：160.7/98.7 → 126.7/77.4
・総コレステロール：208.4 → 192.5
・中性脂肪：126.1 → 74.1
・血糖値：117.6 → 113.2
・HbA1c：5.9 → 5.6 ※平均値のみ記載

【結果】
炭焼き体験や農作業体験など、新たに発掘されたものも含め全23の体験をメニュー化。

【結果】
地元食材による統一ヘルシーメニューについて、味については好評。量について改善の余地あり。民宿の参加意識にも変化(“やらされている”→“積極参加”)が見られる。

【結果】
ホームページによるモニター募集に貢献。引き続き室戸の魅力と情報を発信。また、リーフレットを作成し、モニターなどを通じた口コミ発信に活用。



地元食材によるヘルシーメニューの検討



水中運動指導



モニターからのヒアリング



シーウォッチング体験

◆取組実施による成果・今後の展開◆

平成20年度の取り組みより、将来的な商品化の可能性が明らかになった。

【平成21年度の取り組み】

1. 地元の魅力磨き上げ及び商品化に向けた体制づくり(①宿泊施設の改善、②観光体験メニューの拡充、③ガイドの養成、④窓口の整備等)
2. ヘルシーメニューの拡大(①四季のヘルシーメニュー、②栄養管理システム制作、③食事バランスガイド制作、④食材供給体制構築等)
3. 健康増進プログラムの拡大(①心の健康プログラム、②親子対象のプログラム、③超長期モニターの試行、インストラクターの養成等)
4. 健康イベントの企画運営(①健康をテーマとするイベントの企画開発、②イベントの試行等)
5. 情報発信の強化(①情報発信ツールの強化及び運営、②各種マスメディアによる全国への情報発信等)
6. 本格稼働に向けた取り組み(①地元組織の体制強化、②旅行業者や企業とのタイアップ、③期間を限定したツアー受け入れ等)

→ 平成22年度に地域で自立した本格稼働へ！

地域の落ち込みが激しく危機的状況ではあるが、本取組の本格稼働により、若年就労機会の創出、住民の自信回復、そして室戸の元気の回復を目指す！！